

令和4年感染症発生動向調査概要

1 定点把握対象感染症

(1)小児科・インフルエンザ・眼科・基幹定点報告疾病

令和4年の報告患者数は7,066件であり、令和3年より2,836件の減少であった。

報告数の多い疾病は、感染性胃腸炎(45.4%)、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(21.7%)、RSウイルス感染症(13.2%)の順であった。

令和3年に比較して手足口病、インフルエンザが増加した一方、感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は減少した。

1 定点・1 週当たりの患者報告数で全国平均と比較して高いものは、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(4.84倍)、細菌性髄膜炎(2倍)、無菌性髄膜炎(1.5倍)、咽頭結膜熱(1.47倍)等であった。

(2)性感染症(STD)定点報告疾病

性感染症(STD) 定点報告対象疾病の4疾病(性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症)の全報告件数は500件であり、昨年より1件増加した。

いずれも男性の割合が高く、地域別では西部地区での割合が高かった。

年齢別では、性器クラミジア感染症は、15~40歳代に多く、特に20歳代が最も多かった。他3疾病は、20歳~40歳代に多かった。

(3)基幹定点報告疾病

基幹定点報告対象の3疾病(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症)の全報告数は112件であり、昨年より6件増加した。

2 全数把握対象感染症

(1) 1類感染症

鳥取県、全国とも発生はなかった。

(2) 2類感染症

鳥取県では、結核58件の報告があった。

(3) 3類感染症

鳥取県では、腸管出血性大腸菌感染症14件の報告があった。

(4) 4類感染症

鳥取県では、レジオネラ症13件、日本紅斑熱9件、つつが虫病2件、重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SF-TSウイルスであるものに限る。)1件、マラリア1件の報告があった。

(5) 5類感染症

鳥取県では、梅毒16件、侵襲性肺炎球菌感染症10件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症3件、急性脳炎(ウエストナイル脳炎等を除く。)3件、劇症型溶血性レン

サ球菌感染症 3 件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 3 件、百日咳 3 件、播種性クリプトコックス症 2 件、アメーバ赤痢 1 件、後天性免疫不全症候群 1 件、ジアルジア症 1 件、水痘（入院例に限る。）1 件の報告があった。

(6) 新型インフルエンザ等感染症

鳥取県では、新型コロナウイルス感染症 110,429 件の報告があった。

3 鳥取県内における感染症集団発生件数

令和 4 年の鳥取県での感染症集団発生は、感染性胃腸炎 22 件、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 5 件、RS ウイルス感染症 22 件、咽頭結膜熱 1 件、手足口病 5 件の報告があった。

4 病原体検査状況

受入検体件数 84,622 件で、多い順に新型コロナウイルス感染症 84,500 件、腸管出血性大腸菌感染症 67 件、日本紅斑熱 22 件、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）10 件等である。

4 疾患を中心に 4 種類 6 型（血清型、遺伝子型、遺伝子型および遺伝子群を含む）のウイルス、リケッチア、細菌が分離・検出された。

(1) 腸管出血性大腸菌感染症

O157 が 4 件、O103、O146 がそれぞれ 2 件分離同定された。

(2) 日本紅斑熱

日本紅斑熱リケッチアが 9 件検出された。

(3) 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

SFTS ウイルスが 1 件検出された。

(4) 新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルスが 10,465 件検出された。